

## 救命救急センター

定光大海

救命救急センター・救急科（総合救急部）は主に大阪府下の三次救急を担っており、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例へ対応する大阪府コーディネート事業にも参加している。コーディネートを求められる事例には、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保証するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。

災害医療では、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、厚生科学研究や各種災害研修・訓練にかかわってきた。平成25年10月にDMAT事務局が本院で開設され、東京にある事務局の代替機能を果たことが求められた。その役割は次第に大きくなり、平成27年度にはDMAT技能維持研修を全国で12回担当し、さらにDMAT隊員養成研修を2回主催するに至った。今後もさらに役割が拡大すると思われる。南海トラフ巨大地震、首都直下型地震をはじめ、自然災害や人為的災害にも対応できる機能と機動性の充実を図る必要がある。

研究テーマも三次救急の代表的な病態である多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全が中心になる。厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療録を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を報告し、厚生労働省が進めている災害急性期医療対応の判断根拠となるデータを作成した。2年間にわたる首都直下型地震を想定した指定研究も行い（平成27年度終了）、今後の発生が想定されている大災害時のDMATの戦略的対応に関する研究を行ってきた。南海トラフ巨大地震へのDMATの戦略的対応については今後も厚生科研の小井土研究班の分担研究で継続する。救急医学関連では、学会主導型で行われる、外傷、敗血症、ARDS、市中劇症型感染症（以上、日本救急医学会多施設共同研究；JAAM FORECAST）に参画し、急性CO中毒等の多施設共同研究にも加わっている。

これから新たな専門医制度が始まり、救急を担う医師の確保はさらに難しくなることが予測される。災害医療を担う人材でもある救急科専門医の確保と診療・研究機能の新たな展開を目指したい。

### 【2016年度 研究発表業績】

A-0

Sagishima K, Kinoshita Y: Pupil diameter for confirmation of brain death in adult organ donors in Japan. Acute Medicine & Surgery : doi10.1002/ams2.208 ; 2016

Kajino K, Kitamura T, Kiyohara K, Iwami T, Daya M, Hock Ong ME, Shimazu T, Sadamitsu D. Prehosp Emerg Care : Comparison of Emergency Medical Services and Trauma Care Systems Among Pan-Asian

Countries: An International, Multicenter, Population-Based Survey : 20(4), 477-84, 2016

Sun KM, Song KJ, Shin SD, Tanaka H, Shaun GE, Chiang WC, Kajino K, Jamaluddin SF, Kimura A, Ro YS, Wi DH, Park JO, Moon SW, Jung YH, Kim MJ, Holmes JF. Prehospital Emergency Care : PAROS Investigators. Conversion to shockable rhythms during resuscitation and survival for out-of hospital cardiac arrest : 5,1-10, 2016

Wah W, Wai KL, Pek PP, Ho AF, Alsakaf O, Chia MY, Noor JM, Kajino K, De Souza NN, Ong ME. Am J Emerg Med, S0735-6757(16) 30738-0, 59-64, 2016

#### A-1

木下順弘、有賀 徹、横田裕行、小池 薫：救急医療における終末期症例登録の解析結果について－日本救急医学会委員会報告－「日救急医学会誌」vol27 ; 716-721、2016

上尾光弘：骨折の創外固定法「今日の治療指針 2017」福井次矢、高木 誠、小室一成 編集、P.112-113、医学書院、東京、2017年1月

梶野健太郎：今日の治療指針 2016（二次救命処置）、医学書院、東京、2016年1月

#### A-2

木下順弘：自殺大国ニッポン「救急医学」へるす出版、東京、Vol.40 ;1361-1363. 2016年

木下順弘：「JRC 蘇生ガイドライン 2015」日本蘇生協議会、医学書院、東京、P.110-111、2016年1月

上尾光弘：救急画像診断 深く鋭く読み、どう活かすか I 救急傷病の画像診断戦略 11.脊椎・骨盤・四肢外傷「救急医学」救急医学編集委員会編、40（10）：P.1236-1251、へるす出版、東京、2016年9月

#### A-3

田代貴大、長崎 愛、田中貴子、吉里孝子、小寺厚志、鷺島克之、興梠博次、木下順弘：長時間腹臥位が奏功した敗血症性呼吸窮迫症候群の1例「人工呼吸」vol.33：2016年

#### A-5

梶野健太郎：「増加する救急患者に対する地域での取組（特に地域包括ケアシステムの構築にむけたメディカルコントロールの活用）に関する研究」平成 28 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「地域の救急医療体制評価手法の開発に係る研究、地域医療体制の MC を担う医師の養成に関する研究」平成 26 年度総括・分担研究報告書、2017年3月

#### B-1

Kajino K : Osaka Utstein project from the past to the future. Daegu Emergency symposium, Daegu, Korea, 2016年12月

Kajino K : DMATs and Experiences of Disaster response in Japan. Daegu Emergency symposium , Daegu, Korea, 2016年 12月

Kajino K : Controversies in Pre-hospital CPR (Pros and Cons) co-hosted by Central Fire Service I : Title: Pre-hospital Intubation and Supra-glottic Airway in OHCA : Pros, EMS ASIA2016, 2016年 8月

### B-3

定光大海 : 医療現場は救急認定薬剤師を求めている。第 19 回日本臨床救急医学会、福島、2016年 5月 13日

定光大海、岡垣篤彦、若井聡智、梶野健太郎、平尾智久 : 首都直下地震における医療機関被害想定と災害拠点病院の役割。第 22 回日本集団災害医学会総会・学術総会、名古屋、2017年 2月 14日

廣瀬智也、塩崎忠彦、小川新史、田島吾郎、森 宣人、竹川 良、大西光雄、定光大海、林田純人、嶋津岳士 : 蘇生領域における脳内酸素飽和度 (rSO<sub>2</sub>) 測定に対する我われのこれまでの取り組みと今後の展望。第19回日本臨床救急医学会総会・学術集会、福島、2016年5月12日

木下順弘、横田裕行、小池 薫、織田 順 : 救急医療における終末期症例 WEB 登録の最終結果について。第 44 回日本救急医学会、東京 2016年 11月 18日

梶野健太郎、北村哲久、石見 拓、林田純人、定光大海 : 消防救急車による転院搬送についての検討。第 44 回日本救急医学会総会、東京、2016年 11月 17日

梶野健太郎、岡垣篤彦、若井聡智、定光大海 : 南海トラフ巨大地震の被害想定に基づく国立病院機構系列病院の被害状況に関する検討。第 70 回国立病院総合医学会、沖縄、2016年 11月 10日

梶野健太郎、岡垣篤彦、若井聡智、定光大海 : 南海トラフ巨大地震の被害想定に基づく必要 DMAT 数の検討 (中部ブロックについて)。第 21 回日本集団災害医学会、岩手、2017年 2月 27日

Kajino K : Prehospital outcome studies in Asia and positioning of Japan, 第 19 回日本臨床救急医学会、福島、2016年 5月 12日

### B-4

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海 : 病院情報システムのデータから大規模災害時 ID の妥当性を検証する。第 20 回医療情報学会春季学術大会、松江、2016年 6月 4日

島原由美子、高端恭輔、下野圭一郎、家城洋平、石田健一郎、曾我部拓、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、定光大海 : カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) アウトブレイクに対す

る救命救急センターでの対策。第44回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2016年11月19日

島原由美子、曾我部拓、高端恭輔、中倉晴香、家城洋平、石田健一郎、木下順弘、定光大海：呼吸器離脱困難患者におけるBlom<sup>®</sup>スピーチカニューレの使用経験。第44回日本集中治療医学会学術集会、札幌、2017年3月9日

曾我部拓、島原由美子、石田健一郎、家城洋平、定光大海：低血糖性昏睡を合併した神経性食思不振症患者に対するブドウ糖急速静注の注意点。第44回日本救急医学会総会、東京、2016年11月18日

曾我部拓、島原由美子、石田健一郎、家城洋平、定光大海、佐尾山裕生：中心静脈カテーテルが鎖骨下動脈を貫通し縦隔に迷入した1例。44回日本集中治療医学会学術集会、札幌、2017年3月9日

西山知佳、後藤 励、山田知輝、中尾彰太、木口雄之、岸本正文、西村哲郎、林 靖之、曾我部拓、石見 拓：年齢別にみた内因性院外心停止患者に対する医療費の検討。第81回日本循環器学会学術集会、金沢、2017年3月19日

家城洋平、石田健一郎、曾我部拓、高端恭輔、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、定光大海：腹腔内出血に対し大動脈閉塞バルーンカテーテル留置とDCSを同時に施行し救命した一例。第30回日本外傷学会総会・学術集会、東京、2016年5月30日

家城洋平、高端恭輔、中倉晴香、岩佐信孝、上尾光弘、定光大海：当院での重症外傷におけるIABO(大動脈遮断バルーンカテーテル)を用いた治療戦略。第8回日本Acute Care Surgery学会学術集会、大阪、2016年9月24日

家城洋平、梶野健太郎、若井聡智、定光大海：平成28年熊本地震 災害医療班での現場活動を通じて。第44回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2016年11月18日

石田健一郎、岩佐信孝、上尾光弘、家城洋平、島原由美子、曾我部拓、下野圭一郎、高端恭輔、木下順弘、定光大海：鈍的心損傷による心タンポナーデに対し初療室開胸(ERT)を行うことで救命した一例。第44回日本救急医学会総会、東京、2016年11月19日

## B-6

下野圭一郎、中倉晴香、高端恭輔、佐尾山裕生、家城洋平、石田健一郎、曾我部拓、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、定光大海：急性メチルアルコール中毒の2例。第37回日本中毒学会西日本地方会、三重、2017年2月4日

中倉晴香、石田健一郎、高端恭輔、下野圭一郎、家城洋平、曾我部拓、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘、坂本麻衣、定光大海：服薬中断から数日後に中枢神経症状を呈したリチウム中毒の一例。第115回近畿救急医学研究会、奈良、2017年3月18日

## B-8

定光大海：地域包括ケアシステムにおける薬剤師の機能～入院から在宅へ、地域医療を考える～。広島県薬剤師シンポジウム、広島、2017年3月5日

定光大海：南海トラフ巨大地震に向けた災害医療対策広域災害への医療対応。国立大学看護部長会、大阪、2016年5月19日

定光大海：四国防災・危機管理特別プログラム：災害医療マネジメント〔災害診療録〕、香川、2016年6月24日

定光大海：救急認定ソーシャルワーカーが必要とされる意味。救急認定ソーシャルワーカーシンポジウム、京都、2016年9月4日

定光大海：除染。原子力安全研究協会被ばく医療研修会、東京、2016年9月27-28日

定光大海：検証ワークショップ「事後検証、症例検討会の方法論」。病院前医療体制における指導医研修、神戸、2016年12月2日

定光大海：救急医療に求められるソーシャルワーク。救急認定ソーシャルワーカー研修会、東京、大阪、2017年1月21日

上尾光弘：頭部外傷と意識の評価1。大阪府医師会 災害・外傷初期診療研修会、大阪、2016年7月18日

上尾光弘：頭部外傷と意識の評価2。大阪府医師会 災害・外傷初期診療研修会、大阪、2016年9月19日

上尾光弘：頭部外傷と意識の評価3。大阪府医師会 災害・外傷初期診療研修会、大阪、2017年1月9日

上尾光弘：LICS コース1。大阪医療センターICLS コース（院内）、2016年6月12日

上尾光弘：LICS コース2。大阪医療センターICLS コース（院内）、2016年9月3日

上尾光弘：LICS コース3。大阪医療センターICLS コース（院内）、2016年11月27日

上尾光弘：LICS コース4。大阪医療センターICLS コース（院内）、2017年1月29日

## B-9

上尾光弘、岡垣篤彦、定光大海：（雑誌取材）電子災害診療記録システム、災害現場で使ってみた 独自開発した大阪医療センターDMATが熊本地震で実証。日経デジタルヘルス、2017年1月